

研修を終えて

サバ州森林研究所 李 運 蓮

李さんは、マレーシア、サバ州森林局森林研究所の研究助手で、昨年7月から9か月間、北海道海外技術研修員として、林産試験場で木材化学、主として木材成分の分析技術の取得を目的とした研修を受けられました。本文は、この間の旭川での生活や研修についての感想を日本語で書いてもらったものです。

李さんの出身地であるサバ州は、ボルネオ島の東北部にあり、面積は北海道よりやや小さい761万ヘクタールほどで、その79%がフタバガキ林を主体とした森林で、木材の生産が主要な産業の一つになっています。素材生産量は、年間約1,000万m³ほどで、その80%は日本、韓国、台湾、中国などに輸出されていますが、近年は、州内に製材、合板、単板工場ができ、州内で製材、加工する量も増加する傾向にあるそうです。今回の李さんの研修も、このような状況の中で生まれたものと思われる。サバ州では数少ない木材化学に関する研究者として、李さんの今後の活躍を期待したいものです。

私はマレーシア国サバ州の森林研究所に勤めています。昭和63年度北海道海外技術研究員です。日本で研修する機会を与えられ、とても光栄でうれしく思います。

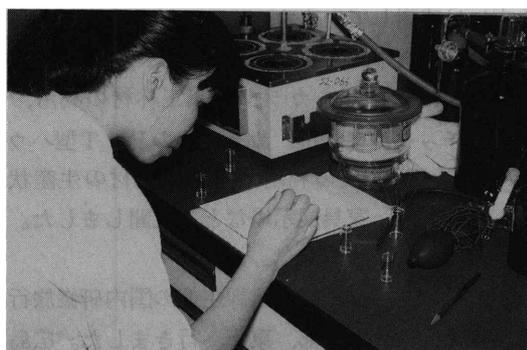
昭和63年5月30日に成田空港に着きました。空港で、北海道国際交流課の方々が出迎えて下さいました。日本へ来た主な目的は木材化学のいろいろな技術を学ぶことです。マレーシアに帰って、役立てたいと思います。

6月1日から、東京のオリンピックセンターで1か月間日本語の研修を受けました。とても難しく、苦労しました。6月30日に、日本語研修の終了式が行われました。そして、北海道へ来ました。日本語の研修時には、研修生全員、同じ場所へ、毎日一緒に通いました。北海道では、ひとりで旭川市へいきますから、不安で、心配でした。

7月1日に、北海道知事公館で知事と副知事にお会いしました。そして、初めて受入研修機関の方々を紹介されました。7月4日に、旭川市の道

立林産試験場で技術研修をはじめました。日本語と専門の言葉はよくわからなかったので、大変難しく、困りました。

9か月間、林産試験場で行った研修で、*Shorea multiflora* (イエローセラヤ類)、*Shorea parvifolia* (レッドセラヤ類)と *Acacia mangium* の3樹種について、抽出物やリグニン、ペントサン、ホロセルロース、 α -セルロース、グルコース、キシロース、マンノース、灰分など



抽出成分の分析実習



研究発表する李さん



林務部研究発表大会の会場前にて

の分析方法について学びました。また、光変色についても試験を行いました。私にとって、とても有益なことです。立派な設備、器具を使って多くの手法、技術を学ぶことができました。この結果は、これらの木を、今後いろいろな分野で、利用する時の指針となると思います。そして、この結果については、2月2日林務部の林業技術研究発表大会で発表しました。日本語を教えてくれた先生方には感謝しています。

また、研修中、北海道の製紙工場、木炭、炭化物などの処理技術、カラマツ人工林材の利用、製材とチップ生産状況、カラマツのP・T型ハウス、カラマツ樹皮の利用、土壌改良材の生産状況、合板工場、家具展示場などを見聞しました。大変参考になりました。

10月に、北海道国際交流課主催の国内研修旅行で、広島、大阪、京都、東京へ行きました。広島

部の歴史を見学しました。大阪では、世界的に有名な松下電器産業株式会社の技術館を見学しました。この会社の電気製品もマレーシアではたくさん売っています。京都、東京では、さまざまな名勝地を観光しました。それから、東京の日産自動車工場を見学しました。私はこの研修期間中、日本の名勝地で遊ぶことができ、とてもよかったと思います。日本の自然の風景、魅力的なディズニーランドなどを見ることができ、マレーシアに帰って、私の友達にこの事を伝えたいと思います。

世界的に工業国として有名な日本で研修を受ける機会を与えられ、日本の工業、文化、民俗、習慣など多くの事を知ることができました。また、この研修で北海道の木材利用、改良、生産状況など多くの有益なことを学びました。

私の生まれたサバ州は、木材を大量に生産している地方です。しかし、木材の利用についてはまだまだあまり発展していません。生産された木材の大部分は輸出されています。できれば、近い将来、大量に改良、利用できるようにしたいと思います。

2月に、札幌市の雪祭りで自分の手で海外技術研修員の皆さんと一緒に雪像を造りました。ほかにも大勢の人達がたくさんの雪像を造りました。この素晴らしい雪祭りに参加したことは、私の一生の思い出になるでしょう。網走の流氷祭りも見ました。大変楽しい思い出として残ることと思います。

9か月間、自然の豊かな旭川市に住んでみて、初めて四季の変化を見ました。すっかり気に入ってしまいました。夏はシラカバの林、カラマツの新緑がとても美しかったです。いろいろな花がとてもきれいでした。夏祭りには、石狩川で花火大会が行われ、とてもきれいでした。秋になって、カラマツ、シラカバの葉は黄色に、イタヤ、ナナカマドの葉は真っ赤で、ハイマツは緑で、とてもきれいでした。よく晴れた日は、雄大な大雪山連峰がよく見えます。とても美しいです。旭川の冬祭りは、たくさんの雪像が立ち並びます。また、氷像コンクールも行われ、ライトに輝いて、とてもきれいでした。私は暖かい国から、寒い旭川市

へきた当時、とても不安で、心配でした。林産試験場の皆さん、日本の友達からたくさん冬衣物をいただきました。御厚情、本当にありがとうございました。そして、今私はだんだん慣れました。この厳しい冬も平気です。この経験は一生忘れないと思います。もし機会があったら、また北海道へ来ます。

この研修中、北海道庁の皆さん、国際交流課や海外協会の皆さん、林産試験場の皆さんから暖かい御支援、御指導をいただきました。厚く御礼申し上げます。

最後に、私の住んでいるところは、マレーシア国サバ州のサンダカン市です。現在は木材とエビの主要輸出港で、海鮮料理や果物などのおいしいところです。世界最大のオランウータン保護区 Sepilok sanctuaryがあります。そして、州首

府コタキナバルの近く、東南アジア最高峰のキナバル山(4101m)があります。この山は動物と植物の宝庫です。許可を受ければ登山もできるので、機会があれば挑戦してみたいかがですか。

そして、私は今度の技術研修の機会を持つことを与えて下さいました、サバ州の青年海外協力隊の方々と十勝支庁林務課の大堀尚己さんに感謝いたします。

他の国の研修員の皆さん、10か月間皆さんと一緒に日本で生活でき、とても楽しかったです。御友情、私は忘れないと思います。

北海道の皆さんと友達、私のところへ来てください。歓迎いたします。

“Semua kawan - kawan , selamat tinggal ”

“ 日本的朋友們，願我們的友誼永遠存在 ”